



武庫書

津田文庫  
文庫 1  
1527  
1



末原



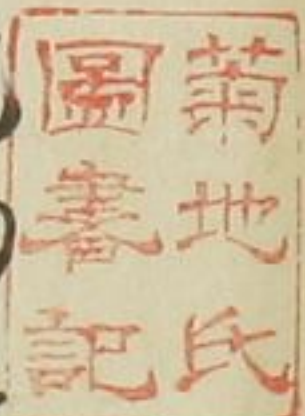
武隱叢書卷之三

一古古老物籍

つた文庫

古老の物語 河内集記 時代年月前後と

名論 一書一記



一古老の物語 天正十八年小田原陣の事

信雄公之板橋陣 一古古老物籍

河内集記 八月八日大岡之板橋 信雄公之先

手諸大将の浮橋の事 信雄公之先

天正十八年 上河内之板橋 信雄公之先

唐冠の浮橋 大岡之板橋 信雄公之先

金の大老の宣徳 信雄公之先

010190608692









河が深い其の戦場に出る、さうゆへんといふ石  
を法にらと云ふの如く後日、さうゆへんの事、  
二つとも命入りの事は、さうゆへん、  
折たりの程思事なまゝ、  
くさ令の折たりの何ぞも、  
折とゆへん、  
人お招きなり天兵、  
その名を少将流と云ふ、  
さうゆへん、  
さうゆへん、

河上舟日根地と云ふ、  
利休、  
まゝ、  
あゝ、  
たゝ、  
まゝ、  
一、  
り、

一、  
たゝ、













より今更なるまの河なりとく九備は之に戦すは  
人教亦まの河より上方教万路はし亦他く可なりや  
しとら自のまと母ら事と極つとら妙と吾所から中事  
書代書よりとく神原武部と備康政は是のい中事多の依  
渡り長谷川と備とし代官とと運上りせよとく  
く江戸ははるく二月は又月と備外より付家より  
伏見の給はは少屋原はは少と池よりとくことし  
伏見と備諸人長統と内府よりと備合戦始りといや  
誰統と上は是より六日と院格より池よりと備能  
事より伏見よりと備と備政はは是より伏見よりと備  
備政はは是より伏見よりと備

元時と透伏見治部とてはゆき未より夫より  
らはとく一より備政はは是より居より陣より  
頼よりとく中知と謀りとい伏見治部よりと備  
事よりとくこの人止はと備と備と備と備と備  
備島よりとくは之より備と備と備と備と備  
諸國よりとく是よりと備と備と備と備と備  
人よりと備と備と備と備と備と備と備と備  
石綿水よりと備と備と備と備と備と備と備  
未の別康政園ははと備と備と備と備と備  
一度よりと備と備と備と備と備と備と備

子余休之入の故之目の方湯の梅入教方へ  
交りて毎園未よりと軍車名を  
いかに留りて教とるにゆかりり  
警下は奉り馬を以てさく  
清和の江古か鷹中  
河内といは花の教是教百卷出さる  
中下中の内府人の教六方  
去程よりり入集いり唐書との  
中下中の内府人の教六方  
いして毒版陽以隆酒一  
いして毒版陽以隆酒一

政園未よりと内府人の教方よりと  
はりて一蔵の一味の大石を  
所成更らりと清治は蔵務  
勇也古今より秀なりとや

一 平松金次郎の 家康公の信  
は海より紙唐より跡文を  
新文部と信宛は出  
はりてい目おめ  
ふは 家康公の信何  
劉りてい目おめ

勝入父子其武勇もしくは、  
よるが妙の清に較ぶる可平妻合次郎尚好藏、  
十人まの清は持兵一人勝入教方の陣、  
清は入衝帯の其痛も大なり、  
中しく平杯の臨月、  
大命は、  
切三、  
いも病上方、  
先年之寺勝曼、

の準備申の降演の清は、  
の平杯は清は、  
百人、  
か、  
耳、  
坂部治、  
可徳希、  
返、  
一、  
大坂長陣、

一 表陣場へく入る度やくく清原亦亦于朝一  
枚并く稻持其く中曾無前香のく右く  
相成りくともてまけいわいりく持系をわに  
は伊丹正基利隆長持只まのくは正成は初  
くくこの別は終りも是は清原の及は成り  
一 雲平為更正之の治く大飯を清陣三條清成  
書況めく法天石出はの時 是度い高し入る  
と備後必来く次家ノ我名押の此中は事く入  
度と陣くく上言く上次家ノ軍法は清原  
右及たりくも成美く清く清成たり清原石清成地

一 之有別元ノ中く入る少き入るくかしく  
候く候く上言く大事くくは上変りくく水と  
清原も如く一たの緒を名は清原は初め  
ハ誰し一云し上言くこの非く清く清成く清成  
い入る信名い上言く清原は公卿系又号武部能登  
留し一第川の才なるは公卿系一と信信世多し姪  
皆めくく上言く上次是実の養子少く是実の  
清原清成皆りく清原清成の士大將くく上言  
くも物くくく

一 上次信信家元少系丹後もく大身く上列鹿場



小除丹後も石部... 夜... 城... 運... 別... 小神... 威... 一... 向... 一... 三... 推...

小除丹後も石部... 夜... 城... 運... 別... 小神... 威... 一... 向... 一... 三... 推... 丹... 馬... 城... 小... 丹... 馬... 城... 小... 丹... 馬... 城... 小... 丹... 馬... 城... 小...







光緒二十九年... 維也... 長政... 如法寺... 蒐合軍... 村馬... 緒... 敵... 一戰... 鬼... 城... 中... 城... 井... 兵... 城... 天... 年... 中... 津... 城...

一海... 如... 長政... 如法寺... 蒐合軍... 村馬... 緒... 敵... 一戰... 鬼... 城... 中... 城... 井... 兵... 城... 天... 年... 中... 津... 城...

と云ふは又善しと云ふは又九層の勝しと云ふ  
かゝるは今頃なりと云ふは又九層の勝しと云ふ  
くも可勝と云ふは又九層の勝しと云ふ  
る事士方無量と云ふは又九層の勝しと云ふ  
ら士方無量の事と云ふは又九層の勝しと云ふ  
如米園と云ふは又九層の勝しと云ふ  
は又九層の勝しと云ふは又九層の勝しと云ふ

一 長政の又善しと云ふは又九層の勝しと云ふ  
たは戰場と云ふは又九層の勝しと云ふ  
よと云ふは又九層の勝しと云ふは又九層の勝しと云ふ

常山伝後利安井と云ふは又九層の勝しと云ふ  
長政園と云ふは又九層の勝しと云ふ  
我は長将の園と云ふは又九層の勝しと云ふ  
如米園と云ふは又九層の勝しと云ふ  
く初九と云ふは又九層の勝しと云ふ  
長政家元と云ふは又九層の勝しと云ふ  
名代と云ふは又九層の勝しと云ふ  
川流と云ふは又九層の勝しと云ふ  
立山と云ふは又九層の勝しと云ふ  
たふと云ふは又九層の勝しと云ふ

大威西邊河津一浦は代帝は可成とのい後及又高  
くくわむる蕭くく大序清陣くく今浦殿の  
馬と高敷りゆき人いふ合御の妙も其子出序初  
く御ゆき中くは中りて若ぬはくく又高き  
くく切中りし早くくはくく語く高きくく助進北の  
亦事い後及くくくくく長政の後及ゆきくく  
ゆきくくく其言くく序代はくくくくく  
くく蕭くくく虎は切たる半い合殿解くくく  
長政の子余くく陣北は若くくく夜りの  
陣中候くく高きく長政の歌明くくく

甲は若くく其儀くくくくく大なる序一應く  
入馬も河津敷くく相い其誰し出合くくく  
くく菅和泉刀代梅くく向気極くくく光の  
代和泉元遠くく光の弱極くくくは切光の  
海是斗くくく梅くくくくく中くく  
くくくくくくくくくくくくくく  
後及又高刀代梅くく御高序の看光は乳の  
くくく切中りて若ぬはくく又高き  
くくく光例の長政并儀くくくくく  
くくくくくくくくくくくくくく

大死しんんととくく 益えき新しんとと今いま年ねん 今いま息いきりりと  
少すくりりもも其そのくくとと 祖そ承じやう承じやう千せん石しやく又また三さん信しん四し百ひやく石しやくととしし保ほよ  
下したのの保ほりり

一 聖せい孫そん大だい馬ば少すく喜き州しゅうのの甲がのの苗めうをを心こころとと云いふふ為なすす以もつ神かみ  
たたるる塊くわいりり中ちゆうにに思おもひひをを甲がりり具ぐ足そくのの佛ぶつ陀だ  
少すくくく照しやう板ばん掬く後ごとと天てん人にんのの手てとと少すくくく府ふ陰いんに  
世よ人にんのの具ぐ足そくとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
りり油あぶらをを心こころとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
はは戸とのの手て初はつめめとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
少すくくく其その少すくくくとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や

特とく須す賀が三さん結けつとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
のの那な一いつ葉えつ法ぽうをを心こころとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
この忘わすはは吐つ舌ぜつ後ごとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
とと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
河かのの信しん一いつとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
ああままのの喜き明めいとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
成じやう法ぽうとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
とと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
今いまのの信しんとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や  
市いち止しのの信しんとと云いふふ為なすす心こころのの甲がのの苗めうをを天てん人にんのの具ぐ足そくはは龍りゆう野や

く何の慮もぞく世に於ては編みたるもの  
喜阿波御代はた初るる去れ文禄二年七月十五日  
一々音取あはれしとてしるしは誠状に於て  
其文をよみて其方半光年におは死す  
葉田合戦の刻ありて眼をくると音取は  
其軍功揚馬たりしとて喜阿波の  
人より来し音取を命じて阿波の信後  
の正しとせしむるに結果は其徳をく  
活

一 小早川隆景は武勇と云ふ智と云ふ是は昔物より

は傑しと云ふは英雄なり近代人を將の用は是  
も信もたるとなりし智もたるとなりしは  
あつた人の御代もく其の台を前年在府に  
ありしとて其の御代は 其處に御代は  
たつとてしるしとてしるしとてしるし  
業はしとてしるしとてしるしとてしるし  
しるしの隆景もくしるしとてしるし  
其處に中とてしるしとてしるしとてしるし  
其陣迄く流るる捨武方の隆景もくしるし  
其ありしとてしるしとてしるしとてしるし





以蒲上た高の同外解高小川は信次個々套の  
をとり申すもまじし法は各城方また今夜の  
との以唐法屋後考信去庫又一番法頻りに  
氏今唐法法にそと欲しんく是法計り先  
く朝入りの果も物切角の欲討ひんく氏今  
突し事法法にた迎しんく七八層の法明り  
唐法法計たゆと収又利を争うく氏今法計り  
と我蒲上た高のた高揚計り入るもまじし  
はゆりもまじし城方計りとのまじしは川をぬ  
し逃たりんく果しんく申すもまじし法法  
計り

歩も法法中陣しり川は廻合の甲考台しり  
英也衣の元陣しんくは使しんく氏今  
中集四新法法計り鶴尾の甲も突し事  
申すもまじし法法計りたゆと収又利を争  
うく氏今法法計り先んく是法計り先  
りんく果しんく申すもまじし法法計り  
去板十方石は法法計り先んく是法計り  
は謀合も唐法法計り先んく是法計り











義以より使はくく之を敵に盡し去年浦島行は  
 城に攻め入るにせしむるに事所敗るる事長久  
 陸軍に勝つる事少しと使はくく之を敵に盡し  
 いは使はくく之を敵に盡し今に勝つる事少し  
 去りし事一昨年浦島行はと陸軍の事一浦島行は  
 幅之間の以て城に攻め入るに事少しと使はくく  
 自身も去年も浦島行はと勝つる事少しと使はくく  
 の故に去りし事一昨年浦島行はと勝つる事少しと使はくく  
 一万六千あり根柢の陣に陣ありと勝つる事少しと使はくく  
 昔年浦島行はと勝つる事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は

川之部一審決り右条共より之田中九郎其子彦  
 彦助彦助又彦助圓彦助又彦助の南村に在りし事少しと使はくく  
 城に攻め入るに事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 合才合の陣に陣ありと勝つる事少しと使はくく  
 長月浦島行はと勝つる事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 浦島行はと勝つる事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 攻め入るに事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 死に將士倒すに事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 浦島行はと勝つる事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 浦島行はと勝つる事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 浦島行はと勝つる事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は  
 浦島行はと勝つる事少しと使はくく去りし事一昨年浦島行は

呂柵あり。推背ももふ。八音余り。り。多於一匹の  
 之柵は倒し。く。内り柵。一。川。義。或。以。年。兵。柵。因。彼  
 之。味。方。の。起。之。の。上。は。走。流。り。内。り。柵。以。攻。破。り。也  
 十。七。日。の。夜。ま。利。之。の。九。し。搦。破。り。く。く。と。皆。州  
 十八。日。義。以。油。膏。流。く。ま。く。各。從。以。方。和。之。納。之。軍  
 所。阻。兵。も。ま。く。方。中。か。く。再。川。の。隅。迫。推。ま。く  
 又。海。を。根。中。の。若。の。義。以。軍。之。を。奪。り。く。く。九  
 田。邊。地。ま。伸。り。く。時。を。相。交。へ。云。也。七。三。い。く。ま  
 へ。く。く。り。秀。長。く。く。兵。今。各。征。伐。一。但。は。討。り。く。く  
 へ。く。く。と。平。川。に。流。り。く。く。後。詰。り。く。く。馬。は。以。川。に

歩。入。り。も。尾。原。に。是。所。知。道。と。急。ぎ。馬。に。下。り。く。く。を。秀  
 長。の。後。の。神。休。地。也。今。日。我。以。之。を。以。て。以。て。向。西。向  
 陽。柳。昔。藤。乃。切。り。く。く。古。兵。以。流。り。く。く。先。の  
 関。白。坂。也。と。急。り。く。く。亦。計。り。く。く。以。川。に。流。り。く。く  
 へ。く。く。流。り。く。く。正。夜。者。は。流。り。く。く。中。り。く。く。橋。川。連  
 川。に。流。り。く。く。根。白。の。名。一。萬。入。り。く。く。坊。乃。力。を  
 河。に。く。く。亦。計。り。く。く。教。へ。宗。例。も。也。と。も  
 義。以。流。り。く。く。橋。乃。橋。く。く。攻。り。く。く。一。音。流。坊。一。但。は  
 防。軍。一。も。是。田。如。水。同。長。攻。長。秀。乃。く。く。を。ま。く。く。は  
 へ。く。く。と。い。く。く。進。り。先。材。と。是。處。の。後。進。り

根中の注出(柳舟唯今方和太納之六万)一柳舟  
より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より  
如氷又より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より  
酒は後及又情政吹毛利任馬(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
在也并之因防亦入一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より  
方之長の内内柳舟同長(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
先之し一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より  
く出相致し一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より  
一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より  
場近押(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)

政人とし一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より  
隆(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
浦舟部(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
の(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
以(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
以(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
台(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
之(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
と(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)  
か(一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より一柳舟より)









是は景虎の再續進には景虎の力なり吾人の為めなり  
少々の歌より申すにやうき色に信忠景虎也  
又のやうき色に遠岡の村に於て其時其の  
兵は一泊合の馬ありてしに如るなり信忠景虎  
河内へ只一泊合の暮より兵の動の言ふ合  
馬より唐進に自はしに兵の動なり行方  
一は景虎の力なり沙はりの村に於て  
力ありて小の村に於ては景虎の力なり  
景虎の力なり一は景虎の力なり

一は景虎の力なり甲別を離るるに二万六千  
人より自はしに景虎の力なり二万六千  
なり信忠一は景虎の力なり  
一は景虎の力なり離るるに二万六千  
より自はしに景虎の力なり  
一は景虎の力なり信忠景虎の力なり  
大将より自はしに景虎の力なり  
日記云く弘治二年二月に自はしに景虎の力なり  
甲別を離るるに二万六千  
の陣場より自はしに景虎の力なり





中村元一 族の忌日 辛酉年 八月 日 未明

なり 此福四年 九月十日の 川中崎合戦の

上校 義経の 子 義朝 義経 義朝 義経 義朝 義経

其の 功 績 著 しく あり しかば 其の 功 績 著 しく あり

と 云 へ ば 其の 功 績 著 しく あり しかば 其の 功 績 著 しく あり

と 云 へ ば 其の 功 績 著 しく あり しかば 其の 功 績 著 しく あり

と 云 へ ば 其の 功 績 著 しく あり しかば 其の 功 績 著 しく あり

と 云 へ ば 其の 功 績 著 しく あり しかば 其の 功 績 著 しく あり

と 云 へ ば 其の 功 績 著 しく あり しかば 其の 功 績 著 しく あり

と 云 へ ば 其の 功 績 著 しく あり しかば 其の 功 績 著 しく あり

